

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成21年1月5日
事業所名	愛知三愛福祉会グループホームあいわ
事業所番号	2374900328
記入者名	職名 管理者 氏名 加藤玲子
連絡先電話番号	0561 75 5641

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「慣れ親しんだ地域で、その人らしく生活していくこと」の大切さをスタッフ間で話し合うことを心がけ具体的にどの様に取り組んでいくか話し合っている	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の全体ミーティングで「あいわ」の介護の思い又、ケース・ケアを行い「その人らしさの生活の継続」が毎日の生活の中で生かされているが話し合っている	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方には、面会時に伝えるようにし、「あいわ」での活動を理解してもらえようとしている。運営推進会議が定着してきたので、地域の方への理解が深まるようにさらに取り組んでいきたい	運営推進会議を足がかりに、住人さんの慣れ親しんだ地域への理解が深まる取り組みをスタッフで考えていく
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方とは、朝夕の散歩や定期的なごみ出し等のとき、気軽に挨拶を交わしたりが自然に出来ている	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域がら、自治会、老人会活動等への参加はしていないが、地域のボランティアの方の定期的な訪問を受けている	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	独自の活動はしていない		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で話し合う時間は設定できていないが、各項目について、自己評価を行い、意義を理解していく様になっている。スタッフの日々のケアを振り返り、各自がどのようにしていけばいいか考える様になっている		改善点については、必要のあることから取り組み、日々のケアに取り入れる様にしていく
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、年間活動計画を基に住人さんの活動報告を行い、意見交換をしている。「あいわ」での活動に生かせることは随時生かす様にしている		家族の方の参加はあるが、要望・意見等が十分生かされていない。思いがくみ取れる様な取り組みをしていきたい
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村主催の研修会に参加し、学ぶ機会を持つことができた。学んだ内容をスタッフに伝え、事業所の活動に生かす様にしている		市町村主催の研修会に、スタッフが積極的に参加し、学んだことを事業所のサービスの向上に生かしていきたい
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホームとして学ぶ機会はない		研修会があれば参加していき、学ぶ機会を持っていく
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の職員研修で、学ぶ機会があったが、全員参加はできなかった。日々のケアで見過ごされない様、スタッフ間で住人さんの情報を交換していく		日々のミーティングで、住人さんの状態を具体的に情報交換し、今後も虐待防止に努めていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		<p>「あいわ」からの一方通行になっていると思われることもあるので、ご家族からの話も十分聞ける様に取り組んでいきたい</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>今後スタッフの増員は望めないで、住人さんの望みを常時スタッフが把握していき随時対応していく</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はほとんどないが、生活環境があまり変わらない様に、どんな時でも穏やかな日々が送れる様に努めていく		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人スタッフの研修は、段階を踏んで行い、育成できる様にしている。法人内の研修を中心に、スキルアップできる様に実践しているが、常時全員参加はできていない		法人内研修を中心に、研修の機会に計画的に参加できる様に年間計画を立てていく。出勤者に限りがあるので、できるだけ全員が参加できる様計画していく
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会主催の研修会は紹介しているが、具体的な参加はない。ブロック会議には管理者が出席している。市町村内のグループホームの定期的な交流は実践していないが、情報交換は随時している		日進市内グループホームの交流は定期的には実践していないが、見学や情報交換を計画的に行っていきたい
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩が取れず、常時住人さんと共に居ることで緊張が長時間継続している。お互い声を掛け合い補い合う様にしているが、十分とは言えない。短時間でも体を休める様にしていきたい		自分の都合のつく時間で、短時間でもいいので住人さんと離れて休憩が取れるような環境作りをしていく
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々の住人さんの変化、望みに、どの様に対応していくかに終始し1日が終わってしまうことが多い。ゆったりとスタッフ各々が目標を持って仕事し、充実感を持てることが望ましいが、現実には余裕はない		「あいわ」の各種行事の企画、介護計画を作成する等、個人の力量を高める取り組みに責任を持ち継続していくことでホーム全体の生活の質を高めていく様にしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>必要に応じて、体験入居、施設訪問、自宅訪問をし、住人さんが「あいわ」でどのような生活を送りたいか、不安に思うことは何か等、話をしている中で見つけ、共に生活することへの不安を取り除き安心できる場であることを伝えている</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に家族と話し合いを重ね、住人さんにとってグループホームが一番適切な生活の場であるのか共に考えていく。家族の思いを十分聞き、生活の場として「あいわ」で家族とスタッフが共に住人さんを支えていくことを説明する</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居申し込み時、今、必要なサービスがグループホームに入居することなのか、他の様々なサービスでは十分ではないのか話し合いを重ねている</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人と家族がホームを共に見学する。ホームでの生活を体験する等を事前に行う。実際に入居する以前に、昼食を一緒にしたり、「あいわ」での活動と一緒にいたりして、ホームでの生活に親しんでもらう様にしている</p>	<p>本人の意思を尊重し、安心して入居してもらうことを最優先とする。「あいわ」での生活が、本人そして家族の納得、理解を持って受け入れてもらえる様スタッフ間で今後もそれぞれのケースで話し合いを深めていく</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「あいわ」で共に生活する者として、できることお互いが支えあう関係を作っている。まずは住人さんの意志を最優先し、スタッフ側からの強要にならないように心掛けている</p>	<p>毎月のミーティング時、ケース・ケアで住人さんのその時の状態を情報交換し、自分のできる力をいつでも発揮できるように全員で支援していく。個別での対応が必要なときは、随時、個で接し、できる力を維持してもらう様にする</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お客様ではなく、一緒にお茶を飲んだり、食堂で他の住人さんとも接してもらい、ホームでの普段の生活を知ってもらう様にしている。日々の出来事を伝え、何かあった時は一緒に考えていく様にしている		ホームに任せっきりになってしまう家族や、訪問回数が減ってきた家族には、電話等で随時様子を伝える様にしているが、スタッフからの一方的な連絡になってしまう傾向があるが、繰り返していく
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	買い物や外食、馴染みの美容院と、今まで通りの家族との関係が続く様にしている		ホームでの行事等、通信で知らせ、参加を呼びかけているが不十分である。どんな時でもスタッフの方から声をかけ、良い関係を作っていく様にしていく
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが、ご近所の方の訪問があったり、手紙や電話で交流を深めている。以前利用した美容院を定期的に利用したり、たまに自宅に帰って近所の方と交流を持つ様にしている		自分から積極的に気持ちが動かなくなり、徐々に忘れてきているときもあるので、スタッフの方から声をかけ、知人に会いに行ったりが何時でもできる様にしていく
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互いの気が合う合わないが出て、その相手に強い言葉をかけたり、強い行動に出る時があるため、タイミングを見てスタッフが住人さんの中に入って衝突しない様にしている		気の合わない住人さんが、同じ場にならない様に食堂の位置を工夫したり、スタッフの声かけであまり一緒にならない様にしている
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所した住人さんにも随時訪問し、家族の思いを聞く様にしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で、住人さんの望みや思いがどの様なものなのかを、言葉や行動から把握する様にしている。できるだけ個での関わりの時間をスタッフそれぞれが持つ様にしている</p>	<p>スタッフ間で、ミーティング時に情報交換し、できるだけその時その時で思いが叶えられる様にしている。逆に不穏な行動がある時は、その原因がどこにあるのか把握していく様にする</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の家族との話し合いのときに、ご家族より今までの暮らしぶり、生活歴、地域との関わり等伝えてもらっている。面会時にも随時話を聞き情報収集していく</p>	<p>本人からは勿論、訪問者を交えた会話の中からも今までどの様な暮らしをしていたのか深く知る様に努める</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>「あいわ」の毎日の生活においても、今までの生活スタイルが継続できる様、本人と話し合っている。できることは「あいわ」でも更に維持していける様、又やろうとする意欲を持ち続けることができる様に支援している</p>	<p>個々で接する大切さをどのスタッフも理解しているが、スタッフ不足で十分とは言えない。個々の生活する力をさりげなく日々の生活の中で発揮できる様にしていく</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の思いや家族の思いをできるだけ聞き、介護計画に反映させている。毎月のミーティングでのケース・ケアを生かし、問題点、注意点を話し合い更に、今必要なケアは何かを具体的に計画に生かせる様にしている</p>	<p>家族の思いを訪問時の話の中から引き出す様にしているが十分ではない。本人、家族の思いを会話の中から汲み取る様に努めていく</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態に応じて計画の見直しを行うのが原則だが、現在は半年に1回の書き換えを行っている状態である</p>	<p>入院等緊急時の書き換えは行っている。その時の住人さんに合った計画となる様に、本人の望み、家族の思いはどうかを考え、変化に即した介護計画としていく</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		<p>近隣の事業所と情報交換し、家族の要望にできるだけ応じる様にしていく</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		<p>これからも継続して働きかけ、「あいわ」の生活を理解してもらい、協力関係を作っていく</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		<p>日常的に「あいわ」の情報を公開し、必要なときにできるだけ早く対応していく様にする</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診はホームのスタッフで行い、必要時は家族に状況を報告している。状況が変化し、家族同行で受診し、その日の状態をかかりつけ医より直接家族に伝えてもらう様にしている		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医の往診を月に2回受けている。毎日の行動に変化のあった時は、生活の様子を詳しく報告し、指示・助言を受けている		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	定期受診時、かかりつけ医と共に病院内の看護職員に日頃の住人さんの様子を伝え、必要な時は助言を受けている。又、法人内看護職員に相談し、助言を受けている		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	月1回開催する近隣施設看護連絡会「虹の会」にて情報交換し、入院時はできるだけ早期退院となる様相談している		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	原則、重度化対応は行っていないが、そのようになったとき、次の生活をどの様に考えていくか、家族と早目に話し合い、できるだけ住人さんにとってのリスクを減らしていく様にしている		住人さんがどの段階で、次の生活場面を考えていくか、スタッフ間で意見統一が図られていない。住人さん、家族の方が安心して毎日が送れる様に話し合いを進めていきたい
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	原則、重度化対応、ターミナル対応は実施していないが、住人さんの急変時を含め、今後どの様に取り組んでいくかを考えていく		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>退所に伴い、新しい環境の中でも、今までの生活ができるだけ継続できる様、情報交換を行っている。スタッフが訪問していくことで、不安を減らし安心してもらえる様に努めている</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>毎日生活を共にしていると、慣れ合いで、住人さん一人ひとりとの個に合った丁寧な介護を忘れがちである。ミーティング時等にスタッフ間でお互いの言動を振り返り、個性を大切にした介護ができる様話し合っている</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>どんな時、どんな場面でも、本人の思いが表わせる様に質問を工夫して、日々の生活の中で自分の意思が表出する様にしている。できない時でもスタッフとともにできる様に一人ひとりに声をかけている</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>限られたスタッフで、全面的な個に対応することは難しく、業務優先になってしまう時があるが、「その人らしい暮らし」は、どんな時でもスタッフ間で話し合っていく</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>朝の整容は行っているが、不十分で一人ひとりに合ったおしゃれになっていない</p> <p>本人の好みの服を毎日選んだり、お化粧をしたり党、おしゃれを楽しみ、ゆったりとして整容できる様にしてい</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>どうしてもスタッフの仕事になってしまう時もあるが、余裕を持って住人さんと共に準備をしたり、片付けしたりする様にしている。自分の食器は、洗い場までもっていき自分で洗うを今後も継続していく</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>黙って見ていることが多い住人さんや、ゆっくりと自分のペースで行う住人さんはどうしても取り残されてしまうことが多いので、できるだけ自分の身の回りのことは自分で行う様にしている</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った時は、自分の欲しいものを購入し、自分で支払うことができる様にしているが、何人かの住人さんで行った時は、スタッフが支払ったりしてなかなか個人で対応できていない		全員ではないが、財布の管理、欲しい者の購入時の支払い等行っている。生活の一部としてできるだけ個に合った取り組みをしていく
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	住人さんの希望にできるだけ沿える様にはしているが、スタッフの人数等で十分ではない。「たまには喫茶店に行きたいね」と言う住人さんの声にできるだけ応えていきたい		散歩等は毎日、朝夕出かけることができていますが、個人の望みの外出は十分実施できていない。季節の変化を肌で感じるためにも、積極的に今後も実施していきたい
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春秋の行楽を計画し、慣れ親しんだ場所や、全員での行楽を年2回楽しんでいる。家族にも声かけし一緒に出かける様にしている		食べたい物を食べにスタッフと出かけたり、自宅に帰って近所の方と交流を図ったり等、できるだけ本人さんの望みに応えていく様にはしている。全員が取組むことはできていないので、1年を通して計画的に行っていきたい
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い、年賀状、手紙の返事等、随時スタッフと共に書く様にしている。葉書等は、ファイルし何時でも自分で見れるようにしている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の方と共に親しく過ごせる様、居間を自由に使用してもらっている。お茶の準備等、住人さんとスタッフが共に行い、ゆっくり、のんびりとくつろいでもらう様にしている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修会での研修内容としても挙げられており、具体的な事例を話題にし、毎日のケアの中で行われていないかを確認し合う様にしている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		<p>自室内にある化粧品類等、使用間違いがあったため、保管方法は個人の状態に合わせて見守っている。住人さんのその時の状況に合わせて、スタッフで保管管理の方法を考え変更していく</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		<p>ヒヤリハットの記録、事故報告書の記録をスタッフ間で共有し、原因が何であるかを探り、再発防止に努めてはいるが、繰り返すことがある。今後も話し合いを重ねていく</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>法人内の避難訓練に参加し、また、消防署による年2回の訓練を行い、落ち着いて住人さんに安心感を持って避難してもらえる様に心掛けている。常に緊急時の避難をどうするか考える様にしている</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>一人ひとりの住人さんが、どのようなリスクを抱えているのか家族と常に話し合い、「あいわ」では見守りの中で抑制せずに暮らすことを心掛けている点を伝えていく。まずは、本人の意思を最優先していることを話していく</p>		<p>変化する住人さんの状態にスタッフが対応していける様に、常時スタッフ間で情報を共有し、その時に必要な暮らしで住人さんに対応できるようにしていきたい</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>バイタルチェックを毎日時間を決めて行い、いつもと違う住人さんの変化に目を向け、体調の変化のあった時は、早めにかかりつけ医に受診する。申し送りで全員のスタッフに伝わる様にしている</p>		
74	<p>健康観察、内服一覧、受診報告の各ファイルを作成し、全員のスタッフが把握する様にしている。内服薬に変更があった時は、詳細に状態を観察・記録し、必要時はかかりつけ医に受診している</p>		<p>状態によって内服薬の変化があり、申し送っているものの十分とは言えない。スタッフ自身の意識が高まる様工夫していく</p>
75	<p>排便チェックを毎朝行い、各自の排便パターンを把握する。水分摂取や食材の工夫、体を動かす等、薬に頼らない排便に心掛けている</p>		
76	<p>毎食後の口腔ケアを見守り、介助のもとで行い清潔に努めている。(義歯を含む)1か月に一度の歯科衛生士の指導助言を受けている</p>		
77	<p>1日の全体のおおよその摂取量を考え、一人ひとりの住人さんが確実に食べられるようにしている。食べれない住人さんには、補助食を利用している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルをスタッフ全員が熟知し、予防に努める。毎日の取り組みとして、食事前の手洗い、うがい、外出時のマスクの着用、排泄後の手洗いは見守りの中で徹底している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器類の漂白消毒に心掛け、夜は食洗機を利用している。賞味期限を厳守し、余ったものは冷凍保存に心掛けている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るく、気軽に出入りできる入口になる様、住人さんの写真を置いたりしている。玄関のベンチでは、自分のペースで履き物を変えたり、一息ついたりできる様にしている		住人さんと一緒に、玄関前の花壇の手入れをしたり、野菜を作ったりしているが、十分時間が取れていない。スタッフの仕事とせず、できるだけ住人さんの力を借りて、日々行う様にしていきたい
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ部屋に引きこもらず、住人さん同士がおしゃべりをしたり、スタッフと話したり、新聞、雑誌を読んだり等、くつろげる様にしている。好きな時に、自分でお茶がのめる様、ポット・コップをいつも使える様に置いてある		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファでは、横になったり、テレビを見たり、雑誌を読んだりでき、食堂とは別の自由にくつろげる場所としている。ベランダでのんびり過ごしたり、一人でも入れる場所を確保している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の家族との話し合い時に、「あいわ」での生活の説明、ホームでもなれた生活が継続できる様に協力してもらっている。愛用の家具、食器等持参してもらっている		生活の場所としての居室作りが難しく、家族と十分話し合って、さらに安心して穏やかに暮らせる様な居室としていきたい
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	床暖房、エアコン等を利用し、住人さんにとって心地よい環境となる様にしている。できるだけ自然に合わせた生活を送るよう心掛けている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内が安全に移動できる様に、手摺やソファの位置を整備している。トイレや自室を迷う住人さんには一部表示をしている。わかり辛い住人さんには共に行動し、不安にならない様にしている		住人さんの状態に合わせて変えていく
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症の進行に伴い、生活へのこだわりが出てきている住人さんもある。混乱し、不安になったりしない様、早目に声をかけ、穏やかな日々を送れる様にしていく		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダを利用して、食事やレクリエーションを楽しんだり、日当たりの良いときは体操をしたりして解放感を味わう様にしている。地下の工房で、パーベキューを全員で楽しんだりして、のんびりと時間を過ごせる様にしている		玄関前で、花や野菜を育てたりと、いつまでも自分で自由に行き来できる環境作りをしていく。スタッフの遠くからの見守りの中でのんびりと時間が過ごせる様にいき、自分から積極的に動ける様にしていきたい

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)
周りが自然に囲まれた静かな雰囲気の中で、時間や規則にあまりとらわれず今までの生活を大切に自由にのんびり過ごしています。毎日の生活は、できるだけ穏やかで家庭的な温かさを醸し出せる様に心掛けています。